

## 事業計画書

<p>現在の地域課題に対する本事業での実施内容</p>	<p>青沼財産区（※1）は令和元年東日本台風において佐久市内の主要な被災地となった地域である。青沼財産区にとって、本事業の候補地となる大久保山エリアは従来の林業では小規模で地形条件が厳しく、森林および里山（以下、里山とする）整備が進んでいない。放置された里山は、放置林の増加、鳥獣害の拡大、災害リスクの高まりを招いている。</p> <p>また、青沼財産区および構成区では高齢化が進み、地域内で継続的に森林整備を担う次世代の人材はいないことから、防災上重要な里山の維持管理が将来的に困難となる恐れがある。</p> <p>本事業では、自伐型林業（※2）により、山の保水力（※3）を高める里山整備を進め、また人材育成、防災里山体験を組み合わせることで、里山の防災機能を高めるとともに、地域内で持続的に活動できる担い手を育成し、災害に強く、多世代で里山を利活用する地域づくりを進める。</p> <p>（※1）青沼財産区での実施については別紙協定書の通り、構成議員5名全員による内諾済み。          （※2）自伐型林業の特徴については別紙資料を参照。          （※3）山の保水力とは森林の土壌が雨水や雪解け水を一時的にため込み、ゆっくり川へ流す機能であり、間伐や下草の維持により健全な森林を育むことが、この保水力を高め、結果として下流域の災害防止に直結する。</p>
<p>対象となる人・範囲</p>	<p>②林業機械操作および自伐型林業人材育成研修          ・佐久市内の消防団や自主防災組織のメンバーで応急・復旧対応のスキルアップを目指す方          ・将来的に青沼財産区の里山整備活動の担い手となることを希望する方</p> <p>③防災・里山体験イベント          ・佐久市在住の20～40代を中心とした里山整備・地域づくりに関心のある方          ・小中学生を中心とするお子さんのいるファミリー層          ・佐久市内の自主防災組織のメンバーや地域住民</p> <p>※いずれも一般募集も実施し、不特定多数の市民が参加可能とする。          ※近隣市町村在住の方は、本事業終了後も本事業に関わり続ける意思のある方を対象とする。</p>

<p>事業の効果、 達成目標 (達成目標はで きる限り数値で 示すこと)</p>	<p>① 里山モデル林整備 (防災モデル林の創出)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自伐型林業手法による森林作業道整備：延長300m</li> <li>・整備面積：約1ha</li> <li>・防災機能(保水力向上・土砂流出防止)を高めるモデル林を形成</li> <li>・人材育成研修の実践フィールドとして活用</li> </ul> <p>② 林業機械操作および自伐型林業人材育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資格取得及び実践研修修了者：延べ12～15名</li> <li>・災害時の倒木処理・道路啓開等に対応可能な地域担い手を育成</li> <li>・うち1名以上が翌年度以降の中核メンバーとして継続参画</li> </ul> <p>③ 防災・里山体験イベント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災講座・里山体験イベント：年3回開催</li> <li>・参加者延べ60名以上(地域住民・親子世帯・自主防災組織等)</li> <li>・里山の防災機能への理解促進と関係人口の創出</li> </ul> <p>④ 自走に向けた体制整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修修了者による継続的整備体制の構築</li> <li>・参加費収入による自主財源確保</li> <li>・県補助制度への事前申請完了</li> </ul> <p>①～④により、防災機能を備えた里山モデルを創出し、地域内担い手の確保を進めるとともに、市民の防災意識を向上しつつ、持続的運営体制の構築を実現する。</p>
	<p>①里山モデル林整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作業道整備、間伐、林内整理を実施し、防災機能(保水力・土砂流出防止)を向上</li> <li>・②の人材育成研修のフィールドとしても活用</li> <li>・景観や雰囲気を楽しめる休憩スポット等の整備により交流拠点(現地の自然素材を活用)を創出</li> <li>・大久保山エリアを対象エリアとして想定</li> </ul> <p>※作業道整備については、安全管理及び技術水準を確保するため、初年度は専門的な自伐型林業の実績を有する外部事業者へ委託する。将来的には②の研修修了者が施業を担う体制へ段階的に移行し、地域内で自走可能な整備体制の構築を目指す。委託先については、青沼財産区において施業地及び技術水準を確認したうえで、御代田町の一般社団法人林業芸術社を選定。</p>

※対象エリアは青沼財産区にて選定。大久保山は入澤区の南東部に位置し、麓は入澤区の住宅街への繋がっている。東日本台風の際に林道の土砂崩れが起き、住宅街への大雨の流入につながった。一方で、現在60代～70代の方が旧青沼小学校に通っていたころは、遠足や初日の出の見学に行く山であり、地域の方々に親しまれてきた山であった。大久保山エリアを中心に整備をすることにより、災害リスクを低減するとともに、地域の方々の里山や防災への関心と理解を高め、また新しい世代に里山に通う文化を受け継ぐことに繋がる。

②林業機械操作および自伐型林業人材育成研修

a)チェーンソー資格取得研修

- ・日程：3日間
- ・参加者：6名程度
- ・参加費：25,000円/人

b)バックホウ資格取得研修

- ・日程：2日間
- ・参加者：6名程度
- ・参加費：22,000円/人

c)自伐型林業実践型研修

- ・日程：10日間（土日×5回）
- ・参加者：少人数制（3名程度）。実践型のため、チェーンソーおよびバックホウの資格所有者が対象。
- ・参加費：120,000円/人

詳細

(活動内容・方法・スケジュール等をできるだけ詳しく、別添資料のある場合はその旨を記載する)

※aのみ、bのみ等の受講も可能とする。チェーンソーやバックホウ等の林業機械操作技術の習得は、災害時の倒木処理や道路啓開等の初動対応力向上に繋がり、災害時の応急・復旧活動の体制拡充に繋がる。また、参加者への消防団への案内、また消防団の研修会への参加を相互に呼びかけることにより、消防団の機能強化と消防団の加入促進にも繋げていく。

※研修講師については、自伐型林業の実践経験及び指導実績を有する専門家として、御代田町の一般社団法人林業芸術社太田泰友氏を予定。太田氏は自伐型林業大学校修了後、施業及び人材育成に携わっており、実践型研修の指導経験を有する。なお、佐久市近隣において同様の技術指導が可能な人材が限られていることから、技術移転及び安全確保の観点より選定。

※cの研修の価格設定については、参加を希望している4名へのヒアリングと他地域の事例を基に設定

### ③防災・里山体験イベント

- ・年間で3回の開催を想定
- ・地域の消防団や防災士と連携した防災講座を開催。また里山づくりによる防災効果を体感してもらうことにより、里山づくりの必要性に対する理解を深めつつ、里山に親しみを持ってもらうことを目指す。

#### a) イベント①(案)：「災害と里山」

- －20分：本団体の副代表であり、消防団長を務め令和元年台風の被災時に入澤区の区長として災害対応の陣頭指揮をとった渡辺一夫による被災時の講話

- －20分：被災時に入澤区の消防団として活動した消防団員による災害対応の録画映像を見ながらの講話

- －60分：山を歩き、山の機能を考える

#### b) イベント②(案)：「初日の出を見よう！」

- －里山体験に重点をおいた気軽に参加できるイベント

- －地域の方々に里山づくりの必要性と効果を実感してもらい、青沼財産区での中長期的な事業継続に向けた地域的な土壌づくりを実施

#### c) イベント③(案)「里山で考える災害と防災」

- －20分：防災士による日常防災講座

- －45分：生物多様性の専門家との里山散歩で感じる「生物多様性と防災～多様な森ほど、崩れにくく、流れにくく、燃えにくい」

- －25分：炊き出し体験

### ④自走にむけた取組み

- ・研修修了者が翌年度以降の活動メンバーとして参画することを想定
- ・財産区と連携し持続的な運営体制を構築
- ・翌年度以降の行政補助金申請にむけた準備

※年間スケジュールは別紙を参照

<p>重点テーマに該当する理由</p>	<p>本事業は、令和元年東日本台風において佐久市内主要な被災地となった青沼財産区の里山を対象に、山の保水力向上や土砂流出防止など、自然が持つ防災機能を高める取組を実施するものである。</p> <p>具体的には、自伐型林業による森林整備を行いながら、消防団、防災士等と連携し、地域住民や自主防災組織のメンバーも対象に、山の保水力等の災害時の山や自然の機能や仕組みを学ぶ防災講座や現地学習会を開催することで、地域の防災意識向上を図る。</p> <p>また、森林整備の担い手を育成する研修を実施することで、災害時にも地域内で迅速に対応できる人材を育て、継続的に里山を維持管理できる体制を構築する。合わせてチェーンソーやバックホウなどの林業機械を扱える人材を育成することで、災害時の応急・復旧対応の人材確保につながるとともに、消防団との連携により消防団の機能強化や消防団の認知促進にもつながる。</p> <p>これらの取組により、ハード整備（森林整備）とソフト対策（人材育成・防災講座）の両面から地域防災力を高めるものであり、本重点テーマに合致する事業である。</p>
<p>翌年度以降の取組</p>	<p>本年度に育成した自伐型林業の担い手を中心に、青沼財産区内での里山整備活動を継続・拡大し、持続的に地域の防災力と里山の価値を高める取組を進める。</p> <p>青沼財産区は総面積71ヘクタールを有するが、二つのエリアを重点整備区域として段階的に整備する。</p> <p>一つ目は、地域住民がかつては日常的に散策し、初日の出を見に訪れる本事業の対象となる「大久保山エリア」であり、安全に歩ける作業道や景観整備を行うことで、誰もが訪れやすい里山空間として魅力の再創造を図る。</p> <p>第二段階として整備を進めていく二つ目のエリアは、鉱泉が湧き出る「荷通エリア」を想定。昭和30年代頃まではお湯屋があったが、現在は使用されていない。中長期的にはサウナ等を整備することにより、自然体験や交流の拠点として、市内外から人が訪れる関係人口の創出につなげる。</p> <p>これらの活動を通じて日常的な森林管理を継続することで、結果として山の保水力向上や土砂流出防止などの防災機能が維持・強化される仕組みを構築する。</p> <p>また、研修参加費等の自主財源の確保、財産区等と連携した行政の制度の活用により、財源を多様化し、本支援金に依存しない自立的な運営体制へ移行する。</p> <p>また中長期的には、市内の山主向けの視察を受け入れ関心を高めるとともに、自伐型林業人材を輩出することにより、自伐型林業による里山整備を佐久市内へと横展開していく。</p>